

児童期における相談支援の 初期的な対応

- ガイダンス
- 演習1（個人ワーク・グループワーク）
- 演習2（模擬会議の実施）
- まとめ

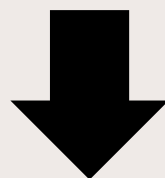
演習の流れ

＊演習１は模擬担当者会議を実施するための準備となる時間、
演習２で行なう模擬担当者会議が、本演習の中心となります。

時間	項目	内 容
10分	ガイダンス	演習の目的と流れを説明
50分	演習 1	モデル事例についてイメージづくり グループワークやロールプレイのウォーミングアップ
60分	演習 2	模擬担当者会議(ロールプレイ)の体験
10分	まとめ	

獲得目標

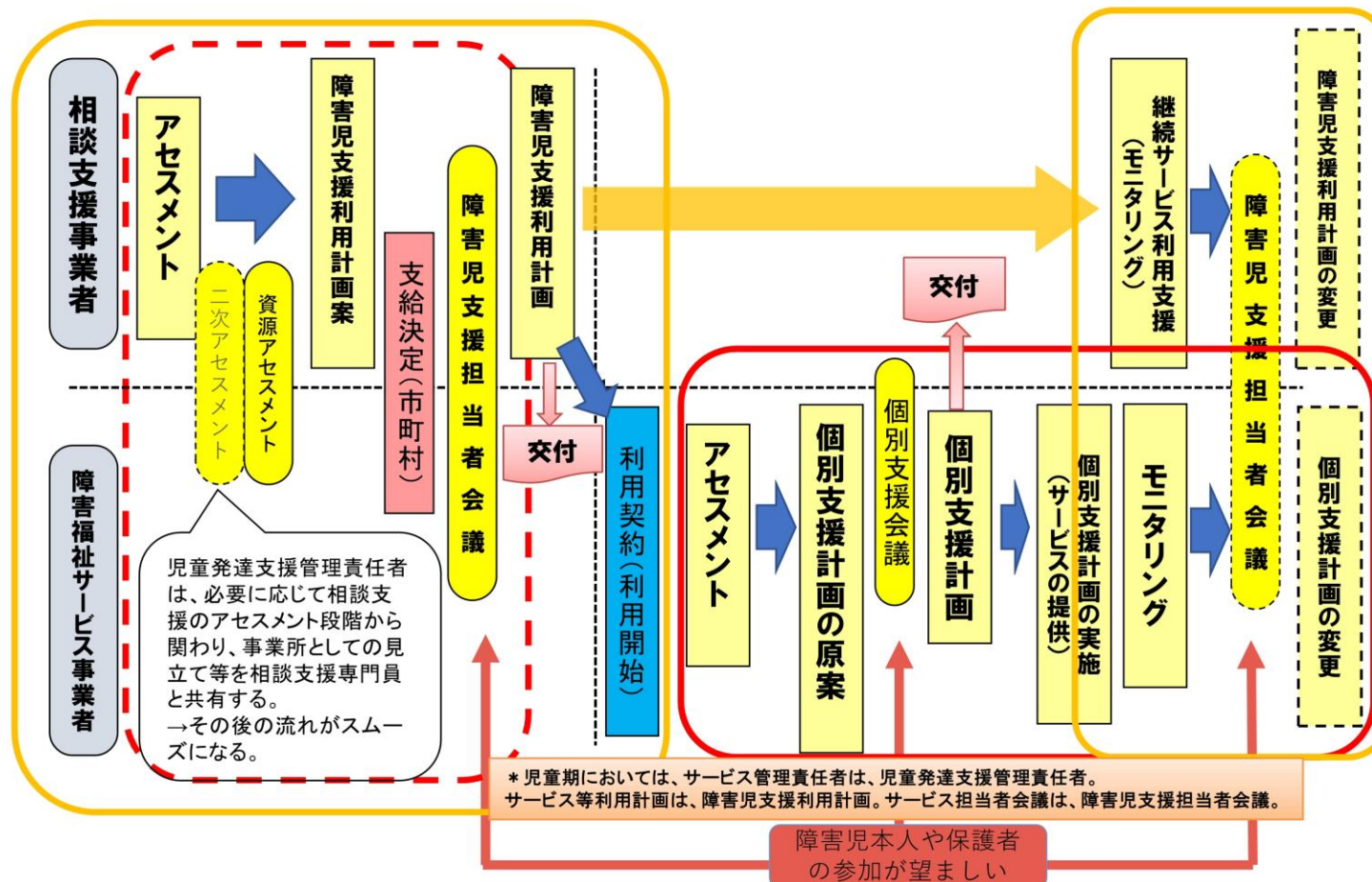
- 目指すべき障害児支援利用計画と個別支援計画の関係性について理解を深める
- 支援現場において実践可能な知識等を獲得する



- 提供事例に基づき演習を展開していく中で、障害児支援利用計画と個別支援計画の関係を明らかにし、支援を深めていくために、相談支援専門員と児童発達支援管理責任者がどのように連動していくかを体験的に学習する。

指定特定相談支援事業者（計画作成担当）と障害福祉サービス事業者の関係

参考資料



実際には障害児通所支援事業所に直接利用相談が入る等、さまざまな状況があると承知していますが、この演習については、上図の赤い点線で囲まれている部分を想定しています。

相談支援専門員

利用計画案の作成
相談支援の実施

児童発達支援管理責任者

個別支援計画の作成
発達支援の実施



支援チームの結成
総合的な支援方針の共有

一つの方法として、
担当者会議の開催

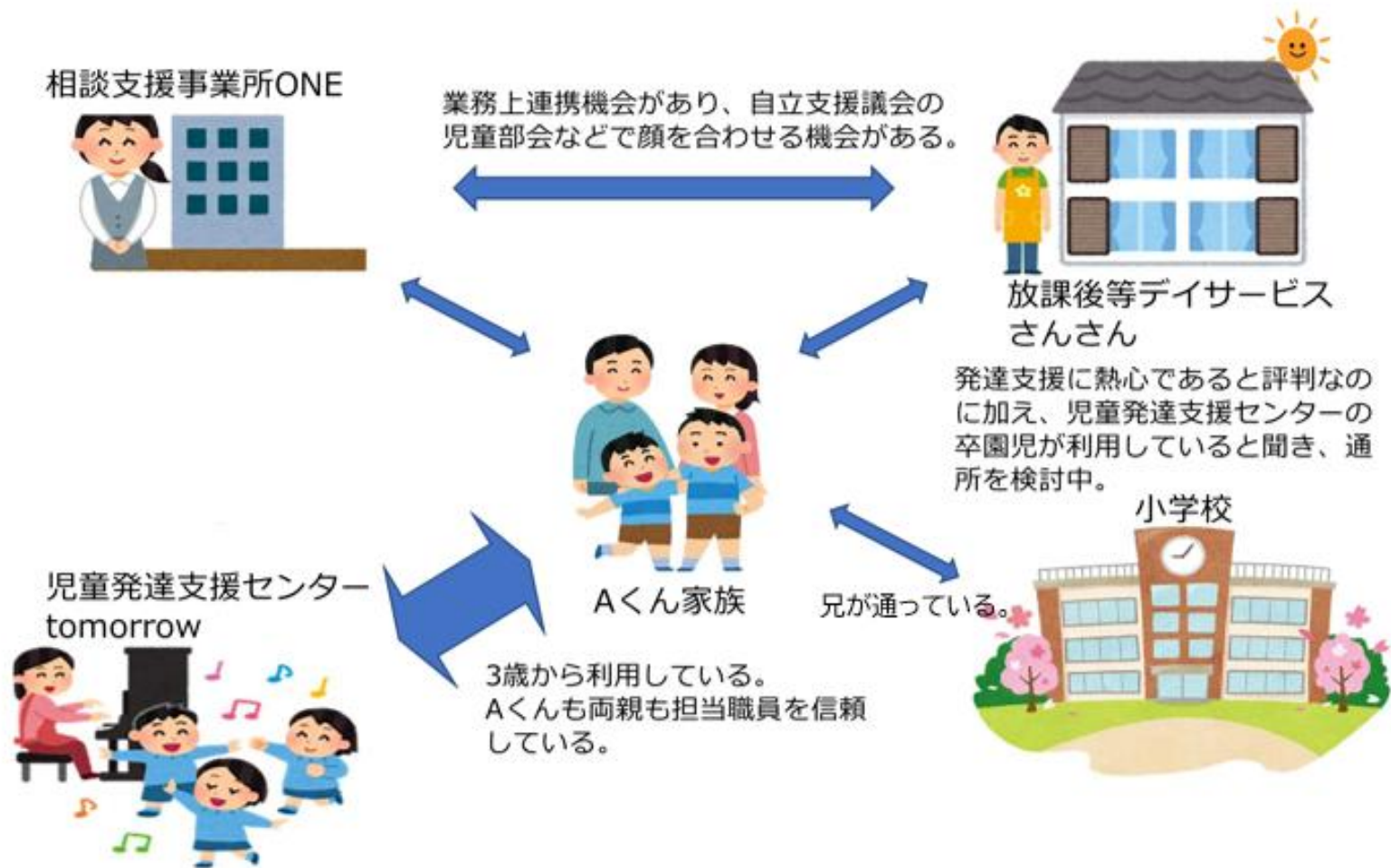


この演習では、

モデル事例を用いて、模擬担当者会議を体験することで理解を深めていきます！

演習1 モデル事例のイメージづくり

時 間		内 容
10分	事例説明	事例の経過を説明 各自で事例概要の読み込み
15分	個人ワーク	①ケースの第一印象 ②必要と思った支援 について個人で記入
25分	グループワーク	①、②の内容をグループで共有する



市外の『児童発達支援センターTomorrow』（以下、児発C）に通所しているAくん。次年度の卒園に向け近隣の小学校に進学予定（兄も在校しており、Aくんと一緒に通える事を楽しみにしている）。Aくんのさらなる成長のために母は引き続き発達支援を受けさせたいと考えていた。児発Cの担当者の勧めもあり、進学後は放課後等デイサービスの利用を検討中。それまで児発Cに併設されている相談支援事業所を利用していたが、より身近な地域で相談が受けられるように『相談支援事業所ONE』に計画作成を依頼しようと考えている。放課後等デイサービスについては、児発Cの卒園児も通所している『放課後等デイサービスさんさん』を候補として考えている。

事例の概要

項 目	内 容
本児	Aくん 5歳男児（年長児、来年度に就学予定）
家族状況	父(33)・母(30) 兄(小学3年生、放課後児童クラブ4日/週利用) 4人家族 共働き世帯(父は市外の会社勤務。母はパートタイム、月～木の就業。母は経済的事由から時間増を検討中だが本児の心配もあり、迷っている) 市内中央エリアの戸建てに在住(住宅街・近隣トラブルない) 祖父母は母方・父方ともに県外在住で、年に数回会っている
手帳の種類と等級	療育手帳(B1) 手当等の支給は受けていない
成育歴と病歴	普通分娩 低体重で出産 現在も平均と比べると身長が低く体重が軽いが医師から心配ない(標準の範囲)と言われている 大きな病気・怪我もなく元気に過ごす 1.6歳健診で初語が出ていなかったこともあり、保健師より健診後のフォロー教室を紹介され、経過観察となる 3歳になったころ、単語は出ていたものの会話は難しく、言葉の遅れを心配に思った母が保健師に相談し、児童発達支援センターtomorrowの紹介を受ける 療育手帳を取得する際に、一度近所の病院の発達外来を受診したものの、それ以降は受診していない 教育調査の結果もふまえて、地域の小学校の特別支援学級に進学予定
希望など (本児・保護者)	Aくん:「兄ちゃん、学校行く!」「お友だちと遊ぶ!」「公園、好き!」(どこまでイメージできているか分からないが、学校や児童クラブに兄と一緒にいくことを楽しみにしているようで、「兄ちゃんで行く!」と嬉しそう) 家族:環境の変化をうまく乗り越えて欲しい 言語面と情緒的な成長を期待したい(他児との交流など)
その他	本児の就学に伴い、放課後等デイサービスの利用を希望 Aくんは兄と一緒に児童クラブにも行きたいと思っており、家族も地域の子どもたちとの交流も大事にしていきたいという意向がある 両親の仕事の関係で平日は放課後支援が必要(父親は平日毎日、母親は月～木就業)

事例の概要②

項 目	内 容
家庭生活の様子	・語彙が増えて、不明慮ながらも2語文を話し始めている ・走ったり身体を動かすことは好き ・公園で遊ぶことが好きで、日曜日に父と兄と一緒によく行っている。特にブランコが好き ・一方で疲れやすいところもある（毎日のように外に出かけたがるものの、買い物等に連れていくと途中で座り込んでしまうこともある） ・食事の時に椅子に座っていると姿勢が崩れやすい ・動画を観ている時や玩具で遊んでいる時など、ごろんと寝そべっていることが多い ・幼児向け番組が好きで、踊りをよく真似している ・乗り物が好きで、車の車種名をよく覚えている ・タブレットで動画を観ることも好きで、自分で操作している ・服やズボンは自分で脱ぎ着できる。ボタンをとめることは難しい ・日中は布パンツを着用しているが、何かに集中していると、稀にトイレに行きそびれてしまうことがある（夜間はオムツ着用） ・1～20くらいまで数を数えたり、数字の読み書きができる ・平仮名は一文字ずつ読めるが、単語や文章の理解は難しい
集団生活の様子	・夏過ぎから集団遊びに参加する機会が増えた。大人だけでなく、クラスの他児にも自分から話しかける姿が見られるようになった ・友だちとの双方向のやりとりはまだ難しく、「入れて」「貸して」等の決まった声かけをはできるが、相手の返事を待たずに行動してしまう ・誰にでも抱きついていくところがある（相手が嫌がっていても続けてしまう） ・机上でする課題(勉強など)は集中力が続きにくいものの、褒められると繰り返しチャレンジしようとしてくれる ・言語による一斉指示では理解が難しく、他児の動きを見てワテンボ遅れて行動することが多い ・5歳で実施したWISC-IVの結果では、言語理解と比べて知覚推理が有意に強かった
家族関係について	・母はAくんの将来のため、今からできることをしたいと思い発達支援に積極的な姿勢。兄がAくんによく関わってくれていることは嬉しく感じているが、負担になっていないか、兄にも自分の時間を大事にしてほしいと少し心配にも思っている ・父は平日は仕事で忙しいものの、土日は子どもたちを遊びに連れて行ったりしてくれる。Aくんの進路や療育については、母の判断を尊重する姿勢 ・Aくんは兄のことが大好き。いつも一緒に行動しようとする。時々ゲームをしているところを邪魔してしまい、喧嘩になってしまうことがある ・兄はAくんに優しく接してくれる。一方で、ゲーム中などAくんに邪魔されずに一人で過ごしたいと感じている節もある
生活環境について	・小学校までは徒歩5分くらいの距離。 ・学校と同じ敷地内に放課後児童クラブがある。現在は兄が月～木で利用している ・近所にスイミングスクールがあり、兄が土曜日に利用している（父が送迎。Aくんも一緒に見学しており、一緒にプールに入りたそうにしている時もある）

このケースについてイメージしてみましょう！

個人ワーク

- ・このケース（子どもと家族）に関して、感じたこと（第一印象）を記入しましょう

--

- ・このケースに関して、どのような支援が必要だと思いまいしたか？(それぞれの立場・視点で)

必要と思った支援	どうしてそう思ったか(根拠・理由)

グループで意見を共有してみましょう！

グループワーク

- ・このケース（子どもと家族）に関して、感じたこと（第一印象）を共有しましょう

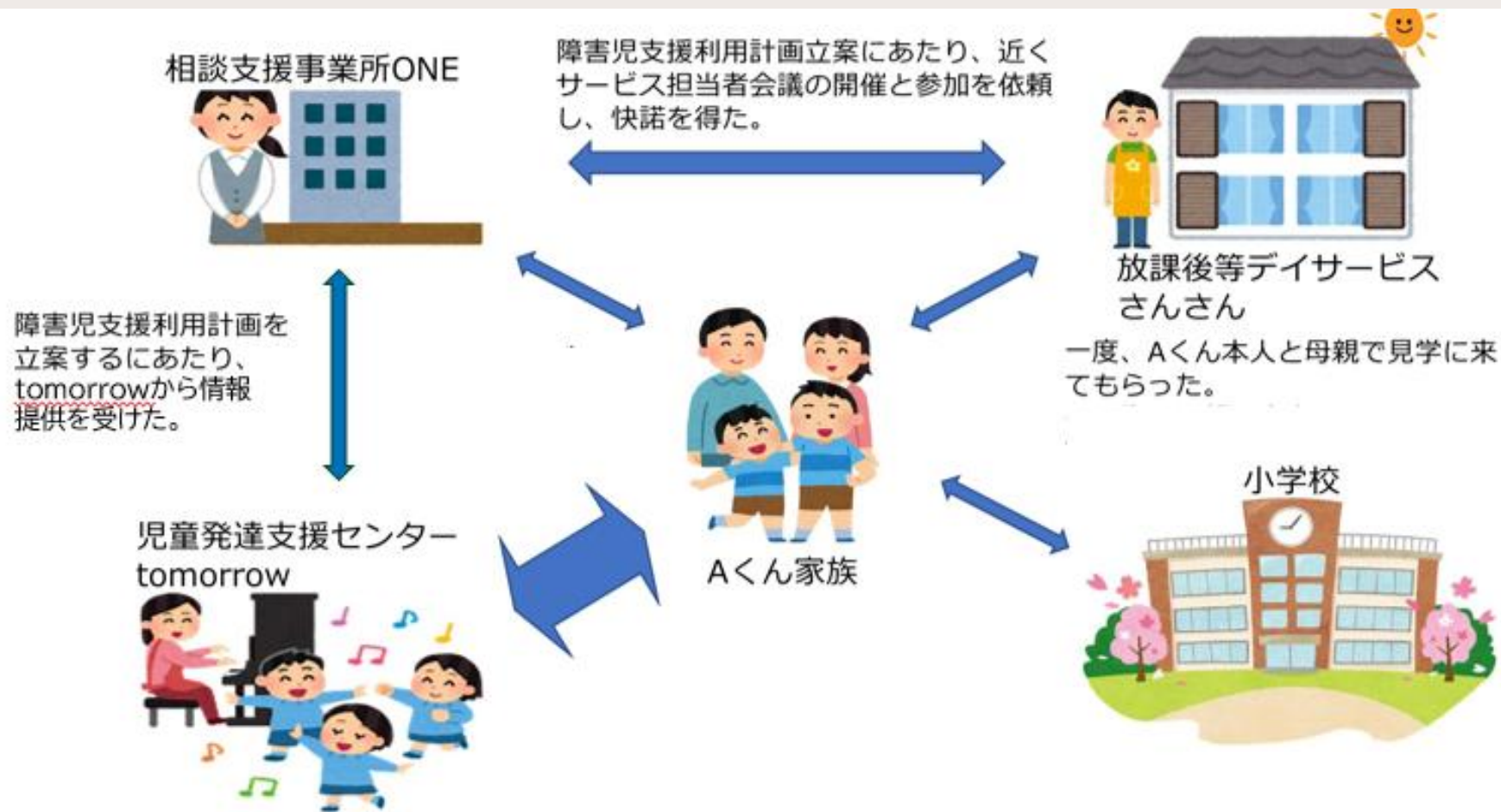
--

- ・必要と思った支援について共有しましょう

--	--

演習2 模擬担当者会議(ロールプレイ)

時 間		内 容
10分	ガイド	事例の補足説明 サービス等利用計画の説明 担当者会議の説明
10分	役割決め	ロールプレイの役割決め 役割シート配布 会議の準備（席順決めなど）
25分	ロールプレイ	模擬担当者会議の実施
15分	振り返り	振り返り表の項目にそって、グループで共有

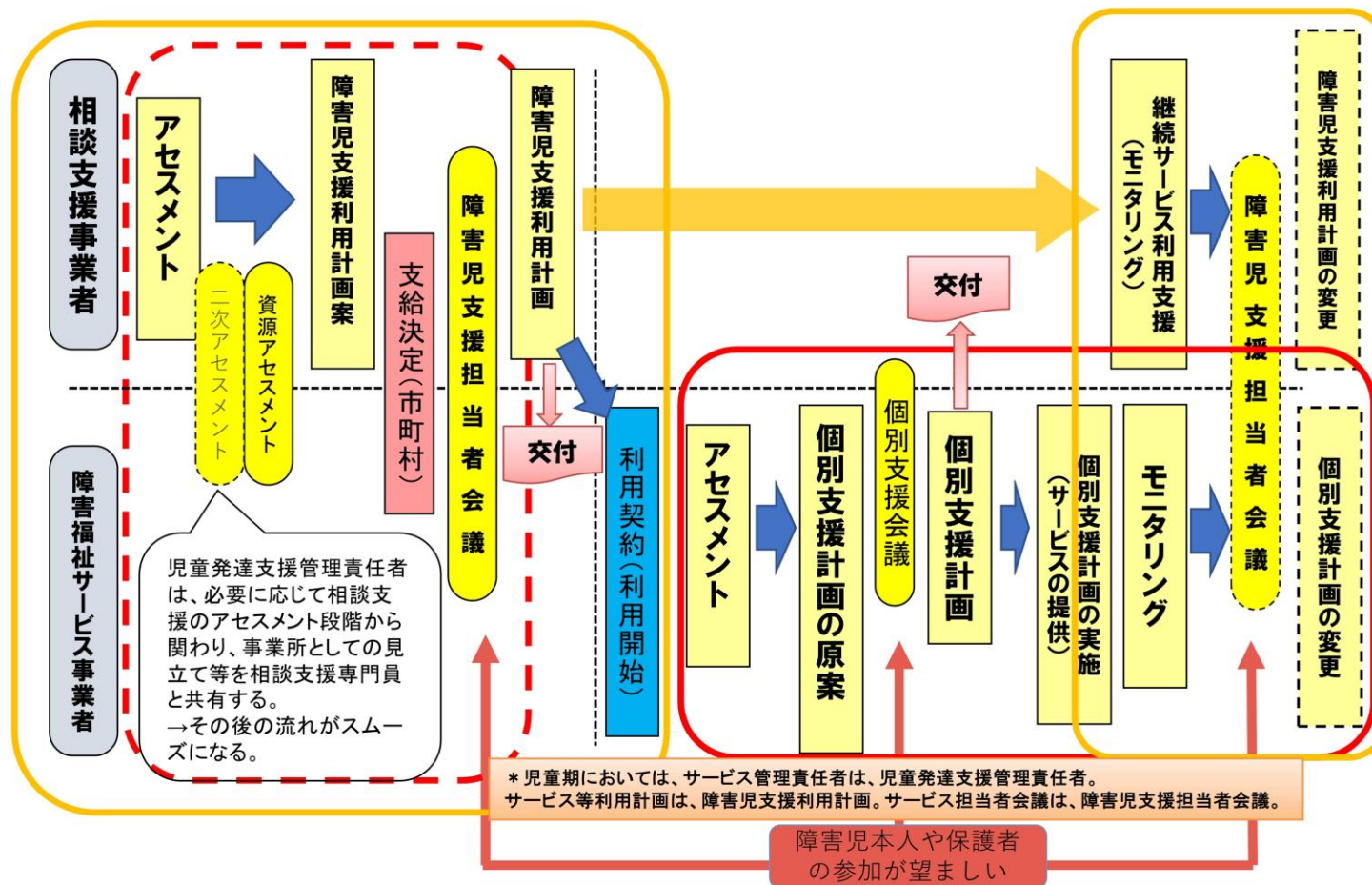


相談支援事業所ONEが計画案作成を依頼することになり、先日Aくんと一緒に面談をした。放課後等デイサービスさんさんにも見学に行き、Aくんも気に入った様子であったため来年度から利用することに決めた。就学にあたって環境が大きく変化することもあり、Aくんが適応していけるかどうか家族は不安に思っている。

これからのAくんをサポートするチームを結成するため、相談支援事業所ONEはサービス担当者会議を開催することにした。さんさんとこれまで支援してくれていたtomorrowに加え、就学予定の小学校に相談を持ちかけたところ、会議の了承が得られた。

指定特定相談支援事業者（計画作成担当）と障害福祉サービス事業者の関係

参考資料



実際には障害児通所支援事業所に直接利用相談が入る等、さまざまな状況があると承知していますが、この演習については、上図の赤い点線で囲まれている部分を想定しています。

模擬担当者会議（25分）

目的

- 新生活に向けて、Aくんをサポートする支援チームを結成する

話題

- Aくんや家族の意向を改めて確認(意志表示を大切に)
- 支援方針、目標の確認(緩やかな合意形成を図る)
- 役割分担の確認と共有
- 各機関からの情報提供、共有
- 次回会議の設定

担当者会議の配役

配 役	氏 名
Aくん	
母	
相談支援専門員 (ONE)	
児童発達支援管理責任者 (さんさん)	
担当保育士 (tomorrow)	
小学校の先生	

※7人グループのところは、一人「観察者」役をお願いします。

ロールプレイの振り返り（15分）

項 目	演習での実施状況
座席や環境面の配慮	
会議目的の確認	
Aくんを中心とした会議 （Aくんの意思表示への支援）	
関係機関からの情報提供と共有	
支援目標の共有（必要に応じた修正）	
参加者全員の発言機会	
関係機関の具体的な役割分担	
次回までに実施することの確認	
Aくん・家族の納得度	

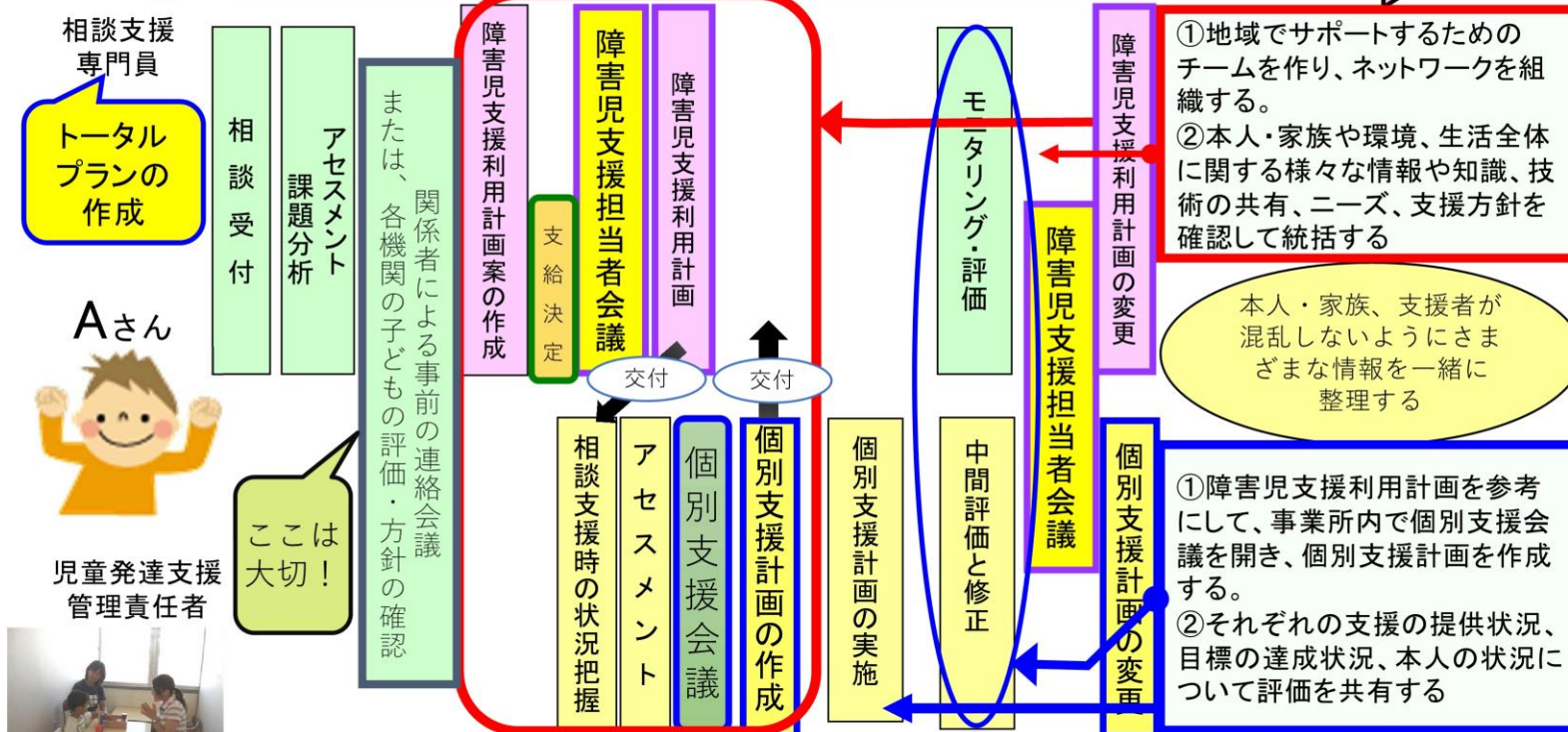
2016サビ児管指導者養成研修児童分野講義「児童発達支援管理者と障害児相談支援専門員の関係と役割」一部改編

支援提供プロセスの連携イメージ

ー本人・家族を中心においてー



障害児相談支援専門員による「つながる」支援



児童発達支援管理責任者による「深める」支援